

埼玉親善大使レポート

2025 年度「女性応援奨学金長期コース」

秦あおい オーストラリア/Australian National University

はじめに

私は 2025 年 7 月から約 1 年間、オーストラリアのキャンベラにある Australian National University (以下 ANU) で交換留学を行いました。本レポートでは、留学先の概要や現地での学習・生活、ならびに埼玉県を PR した活動についてご報告いたします。

・留学先について

留学先であるキャンベラはオーストラリアの首都であり、シドニーとメルボルンの中間に位置する計画都市です。オーストラリアが連邦国家になったとき、シドニーとメルボルンのどちらを首都にするかで対立し、その妥協案として、両都市の中間付近に新しい首都を建設することになり、キャンベラが誕生しました。オーストラリア連邦議会や各国の大使館が集まる政治の中心地である一方、ANU をはじめとする教育・研究機関が集積する学術都市としても知られています。また、街の中心には Lake Burley Griffin が広がり、豊かな自然と都市環境が調和していることが特徴です。ANU のキャンパスも緑にあふれており、様々な種類の鳥やカンガルー、うさぎ、ポッサムなどの野生動物に毎日出会う環境でした。現地の人や学生には「つまらない街」



だと評されることも多いキャンベラですが、治安が良く落ち着いた雰囲気があり、住みやすく学びやすい都市だと感じました。

・現地での生活、活動

大学では、自分の専門である農業分野を中心にしつつ、交換留学生という自由度の高い立場を生かして幅広いコースを受講しました。特に国際関係論やアジア太平洋地域の政治など、国や教育的背景によって意見の別れやすい、海外で学ぶ意義の大きいコースを多く選ぶようにしました。ANU では講義とディスカッションやワークショップがセットで一つのコースになっており、全ての授業で議論や発表の機会がありました。最初は英語力の不足から議論についていけず悔しい思いをすることも多かったですが、バックグラウンドの異なる学生たちと意見交換する機会は大きな刺激になりました。自分の考え方や価値観を相対化し、視座を広げることができたと感じています。授業以外では飲食店でのアルバイトやクラブ活動（Japan Club やフットサルクラブに参加していました）を通して交友関係を広げました。世界中に友人ができたことも、この留学の大きな成果の一つです。

・埼玉を PR した活動



まず、小川の和紙を使った折り紙を用いて埼玉の特産品を PR しました。鶴の折り方を紹介し、実際に一緒に折る体験を行いました。折り紙や和紙など日本文化に興味を持ってくれた他、小川の和紙ならではの柔らかい触り心地が素晴らしいという声もいただきました。また、地元について友人に紹介した際、興味を持ってくれたので埼玉の名所を紹介しました。実際日本への渡航を計画している学生もいたので、観光地として楽しみやすい長瀬や秩父、川越などを勧め、一緒に旅行のプランを立てました。将来的に来日した際には、埼玉を案内する予定です。

最後に

1 年間の交換留学を通して、英語力や専門知識だけでなく本当にたくさんのことを学び、新しい経験をし、そして何より、留学に行かなければ出会うことはなかった素敵な友人たちに出会うことができました。これらは私の財産であり、これからの私の人生を支えてくれる礎になると確信しています。そんな大切な経験となった交換留学ですが、奨学金なしでは絶対に実現できませんでした。このような貴重な機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。そして将来的にこの経験を、研究や仕事を通し

て社会に還元することで、賜った恩を少しでも返していきたいです。